

知的財産報告書 2008年版



2008年7月
井関農機株式会社

目 次

ごあいさつ	1
1. 研究開発の指針	2
2. 研究開発の方向性	2
3. 知的財産状況	4
4. 技術の市場優位性の分析	5
5. 研究開発および知的財産体制	7
6. 知的財産の取得・管理、秘密保持	8
7. 特許の活用	8
8. 知的財産ポートフォリオに対する方針	10
9. 知的財産関連の訴訟情報	10

知的財産報告書 2008年版 発行にあたって

井関グループは、「農業と農業機械」を経営の基軸とし、その開発、生産、販売を通して商品の機能・性能・品質・コスト・サービス競争力を強化し、商品の差別化や優位性の確保による市場競争力の向上に努めております。農業機械、農業関連商品等のコア技術の創造活動と、その活動で得られた知的成果である発明や創作等を戦略的な知的財産活動によって権利化と活用を図り、新たな創造に繋げる知的財産を重視した事業活動に取り組んでいます。

「知的財産報告書 2008年版」では、コア技術と研究開発の取り組み、特許資産管理、有効発明の発掘・権利化活動、商品デザインの取り組み、商標の取り組み、人材育成、秘密保持、権利の活用、グローバル化への対応、保有特許権や発明表彰、知的財産に関するリスク情報等についてご報告します。

【注意事項】

1. 本報告書は情報提供を目的としており、本報告書により何らかの行動を勧誘するものではありません。
2. 本報告書に記載されている当社の見通し、計画、方針、見込み、戦略、事実認識等、将来に関する記述をはじめとする分析は、当社が現在入手している予測、想定、計画等の情報に基づくものであります。
3. 予測を行なうには、すでに実現した事実以外に、一定の前提を使用しています。その前提については、客観的に正確である、あるいは将来実現するという保証はありません。その前提は、内外国の技術や需要動向、経済情勢、競合等の状況にかかわるものであり、前提が変化する結果、本報告書で述べられている、すでに実現した事実以外の事項は変更する可能性があります。
4. 本報告書に記載している特許公開件数、保有権利数等の知的財産データは、当社単独によるものであり関連会社を含んでいません。

ごあいさつ

当社は創業以来80余年にわたり農業機械の総合専門メーカーとして一貫してわが国農業の近代化を追及してまいりました。その過程のなかで数々の農業機械を他に先駆けて開発し、市場に供給しております。

世界人口の増加と食糧問題、また今日の食料自給率や国土保全の問題を考えると、農業機械メーカーの社会的使命はますます重要になってくると考えております。「需要家に喜ばれる製品の提供」を通して、わが国ならびに世界の農業に貢献することを経営の基本理念としてこれからも活動を続けてまいります。

井関グループは現在、稲作、野菜作等に関連する農業用機械の開発、製造、販売を主な事業の内容とし、その他の事業として試験装置の製造、販売及びサービス、その他の事業活動を展開しております。これらの事業活動について、お客さま、株主の皆様、投資家・アナリストの方々をはじめとするステークホルダーの皆様に対し、経営戦略や活動の成果などの企業情報の積極的かつタイムリーな開示に努めております。

従来より決算発表や有価証券報告書において、また会社説明会や新商品発表会などの機会を通じて研究開発活動と成果をご報告しておりますが、本書では、井関グループの研究開発の考え方、活動、成果としての知的財産の状況と活用等についてご報告いたします。井関グループの研究開発及び知的財産を重視した取組みを皆様にご理解頂ければ幸甚に存じます。

また、4月18日発明の日に、平成20年度「知財功労賞」を受賞いたしました。当社の伝統である知的財産重視の経営をご評価いただいたものです。

今後も「需要家に喜ばれる製品を提供する」ため、技術革新を進めるとともに、知的財産の有効活用を図り、魅力ある商品開発に取り組んでまいります。



2008年7月

代表取締役社長
蒲生 誠一郎

1 研究開発の指針

わたしたち井関グループは変貌する農業の中で、「農業機械を通じて社会に貢献する」という使命を抱き、技術者一人ひとりが「技術精神」に則って創造的な研究開発を行っています。蓄積した全ての技術を活用し、お客様の視点に立った顧客満足度の高い商品とサービスを提供することにより、農業に貢献してまいります。そして、これからもずっと農業とともに歩んでまいります。

農業機械を通じて社会に貢献

創造的研究開発

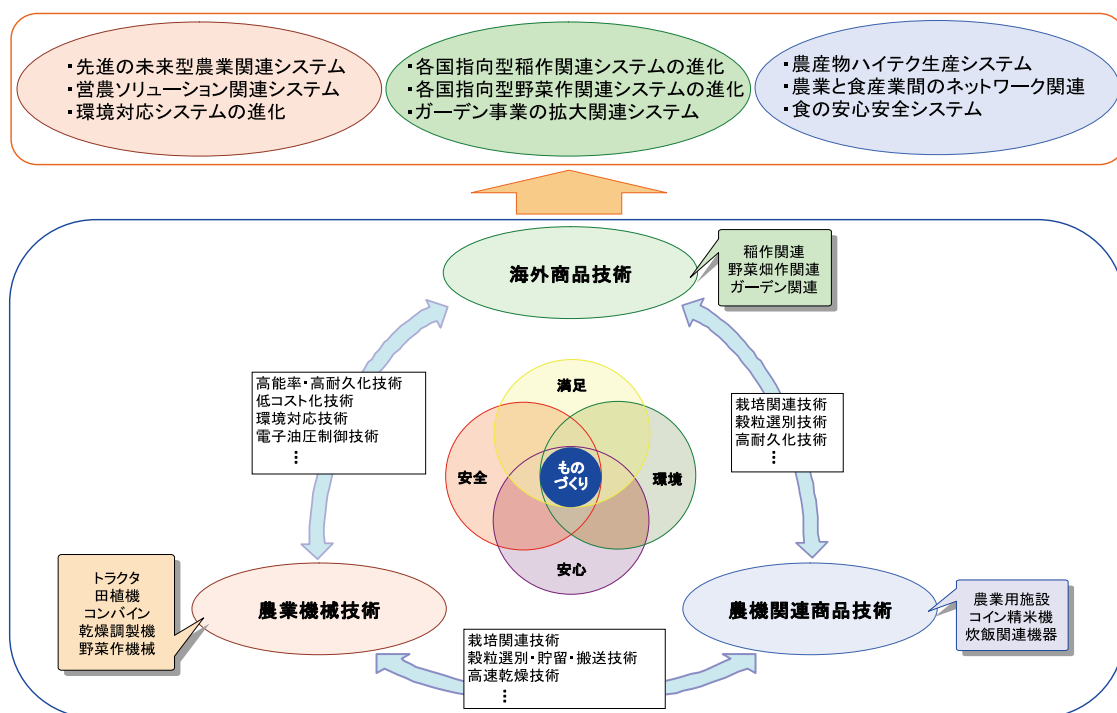
技術精神

- ・ アイデアを売り込む
- ・ 技術総力を発揮する
- ・ 常に一步を先んじる
- ・ 商品理念に徹する

研究開発投資については、中長期的展望に立って需要と市場動向を予測し、計画的な投資を行っています。なお、2007年連結会計年度の研究開発費は約39億円であります。

2 研究開発の方向性

農業機械技術、農機関連商品技術、海外商品技術の全ての領域において、「満足」、「安全」、「安心」、「環境」の4つのキーワードを「ものづくりの原点」とし、3つの領域にそれぞれ方向性を定め、研究開発を推進しています。



農業機械技術

トラクタ 変速・操作性に勝る人に優しい新変速技術、高速通信を中心とした複合制御技術、水田・畑作管理作業に優れた走行性向上技術や作業精度向上技術、担い手農家への経営支援技術の研究開発に取り組んでいます。

田植機 自律直進制御技術、作業負荷を軽減する省力化制御技術、大規模担い手向けの高速植付技術、低コスト経営支援技術、省力高精度直播技術の研究開発に取り組んでいます。

コンバイン 脱穀装置の高精度化技術、ユニバーサルデザインを織り込んだ操作性向上技術、大規模担い手向け高速収穫技術、低騒音・低振動による人に優しい作業環境改善技術の研究開発に取り組んでいます。

乾燥調製機 高品質・高能率化を追求した風選処理技術・玄米選別技術、高速乾燥技術、乾燥エネルギーの効率的利用技術、低騒音・低振動を追求した作業環境改善技術などの研究開発に取り組んでいます。

野菜作機械 水稻技術で培ったノウハウを活用して、移植・収穫・調製の野菜作一貫体系を進めています。軽量乗用化技術、大幅な省力化技術、栽培管理技術、地域対応及び新たな作物への研究開発に取り組んでいます。

エンジン 農業機械特有の作業性能を最大限に発揮するエンジン制御、ゼロエミッションと省燃費の両立を目指した研究開発に取り組んでいます。

農機関連商品技術

高品質・高収量を目指した農産物ハイク生産システムの環境型植物工場、農業施設用情報化技術、バイオマス関連技術、食の安心安全を配慮した環境関連技術、高品質・高速処理を迫及する無洗米関連技術、豊かな作業環境を実現する高機能型炊飯関連技術の研究開発に取り組んでいます。

海外商品技術

欧州・北米向けには電子油圧制御技術による操作性向上等の高機能化および各国に最適な仕様を追求した低コスト型専用トラクタ・芝草条件の適応性を向上したガーデン機械、中国向けには現地特有の作物条件や圃場条件に対する適応性を向上し、油圧系や作業部等の高耐久化やメカ制御技術等による低コスト化を追求した専用コンバイン・田植機・野菜作機械、韓国・台湾向けにはITを駆使した高速作業技術・高精度作業技術等の高能率化・高機能化を追求した専用トラクタ・コンバイン・田植機、東南アジア向けには現地条件の適応性を迫及した高耐久・低コスト型の専用トラクタ・田植機の研究開発に取り組んでいます。

商品デザイン

顧客満足度が高く、親しみと感動をもっていただける商品作りを目指しています。

デザインの基本 ・使用環境にマッチした魅力ある商品 ・長く使って、より愛着を感じて頂ける商品

デザインの進め方 ・現場の確認、市場の声 ・デザイン動向の分析とコンセプトの構築

デザインの展開 ・井関らしさの継承(商品特性、商品カラー) ・時代性を感じさせる新しい魅力の創造

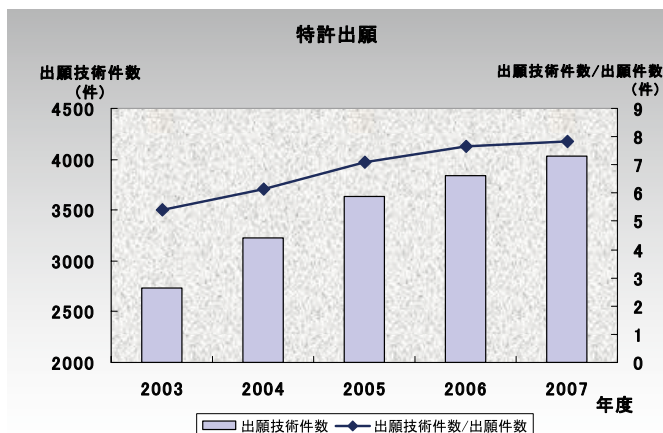
デザインの方向性 ・魅力を感じ、使ってより満足して頂けるデザイン ・農業機械の未来を先取りしたデザイン

3 知的財産状況

発明の創出・特許出願戦略

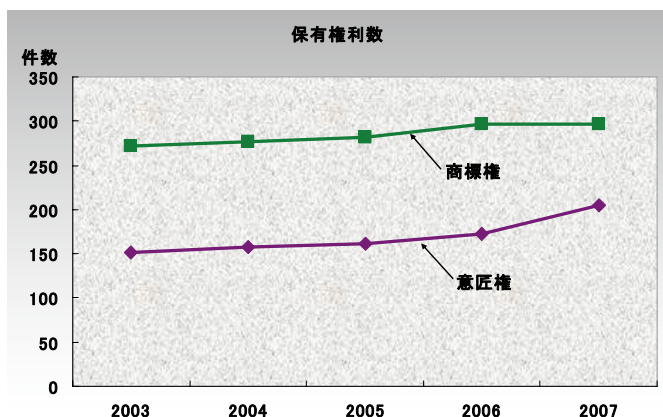
当社は、コア技術を中心とした技術テーマ毎に創造性手法を用いた独自の発明提案活動を推進し、発明の「質」の向上と「量」の拡大を図っております。

技術者は発明・創作に対する強いこだわりと旺盛な意欲を持っており、近い将来実用化する技術に関する発明提案は、年々増加する傾向にあります。提案された発明は社内規程と審査基準に基づく厳しい選別を受け、当社独自の特許出願効率化策を用いて積極的に出願し、特許網の構築を進めています。



意匠・商標戦略

魅力あるデザインと親しみ易いペットネームはそれぞれ意匠権、商標権として蓄積し、他社の商品と差別化・識別化し、デザインの保護強化及び当社ブランド価値の向上を図っています。



商標の取り組み

ペットネームの考え方

- ・農家にとって農業機械は共に仕事をするパートナー
- ・土を作り、苗を植え、管理し、収穫から出荷までの日々の作業で、親しみと愛着あふれる農業機械

当社の代表的な登録商標

- ・田植機の代名詞ともなった「さなえ」 ・世界にも類のない自脱型コンバインの火付け役となった「FRONTIER」
- ・代表的トラクタの「GEAS」 ・管理機の「パンジー」 ・乾燥機の「ドライボーイ」 ・粉すり機の「スーパーメイト」
- ・計量選別機の「ポリメイト」 ・野菜移植機の「ナウエル」 ……など

時代に先駆けた戦略

- ・農業構造の二極化に対応する販売戦略に連動したペットネームの設定
- ・大規模担い手市場に対する高能率・高耐久を求める「ジャパンシリーズ」の名を冠した「ジャパクラブ」の組織化

海外の取り組み

海外においては、米国、欧州、アジア地域をターゲットとした事業戦略に整合する厳選した発明・意匠等の知的財産の出願を着実に進めています。特に、中国等のアジア諸国、米国を重視した知的財産権の取得を進めています。

4 技術の市場優位性の分析

農業機械技術

トラクタ 大排気量エンジンを搭載し、自動水平電子油圧制御により作業機姿勢制御の機能を向上させたシアルハンターTH3シリーズを開発しました。新たに「ノークラッチリバーサ付HST」を設定し、また、AT・TJシリーズで採用している「ワンタッチ作業切換ダイヤル」と「サイドビューライト」などを装備して操作性と安全性を向上したユニバーサルデザインとし、市場で好評を博しています。

ノークラッチリバーサ付HST トランスミッションにHST(自動無段変速機構)を採用した型式では、ノークラッチでスムーズに変速でき、前後進はリニアシフトによりノークラッチで切替できます。

また、昨年開発した大規模担い手向けトラクタ TJWシリーズに、畑作管理作業に威力を発揮する「ズームトレッド」、理想の作業を実現させる駆動力を生み出す「セミクローラ」を追加し、作業汎用性を拡大することにより多様なニーズに対応いたしました。

田植機 好評を博している先進のZ機能を備えた乗用田植機PZシリーズに、新たに担い手大規模農家の期待に応える8条乗用田植機「PZ80」を開発しました。さなえZターンを更に進化させた「さなえスーパーZターン」を備えると共に、「23馬力ディーゼルエンジン」を搭載し植付最高速「1.8m/s」で余裕の高能率・高精度作業を実現し、省力化・快適作業に大きく貢献しています。

さなえスーパーZターン ハンドル操作だけで旋回から植付けまで全自動のさなえZターンに、圃場で一点旋回が行なえる片ブレーキ&クラッチを装備し、旋回時の煩雑な操作を省き効率的な作業ができ、また、圃場四隅での旋回や圃場の出入り時にオペレータが意のままに旋回をコントロールできます。また、Y型仕様には「さなえミラクルZターン」を装備し、旋回内側車輪の駆動を制御して、旋回時の泥の持ち上げを少なくし、圃場を荒らさない綺麗な旋回ができます。

コンバイン 未来的デザインのフロンティアファイターHFGシリーズ(3・4条)を開発しました。斬新なデザインに加え「先進空間コックピット」を搭載し、快適な操作性に貢献しています。

先進空間コックピット 正面にフローティング配置したメーター類及び大画面マルチアイ、この左側に集中配置した自動制御スイッチ、各種操作スイッチを備えた多機能パワステレバー、有線式オーガ操作リモコンをレイアウトし、作業姿勢を崩すことなく、安定した作業が楽に行える新操作席としました。

また、完全全面刈りのフロンティアビバHVBシリーズ(3条)を開発しました。好評のBIGタンク、イージーシフトに加え、籾袋への排出や機体のシート掛けを容易にする「ローヘッドオーガ」、「全面刈リモコン分草杆」を搭載しています。

全面刈リモコン分草杆 分草杆の位置を自在に調節し、刈り始めや中割り時に3条刈りから4条刈りへワンタッチで切り換え、未刈稈を踏まずに全面刈りが行なえます。

粉すり機 高精度・高能率なジェット方式の本格揺動粉すり機「MGJ」を開発しました。粉の脱ぷはジェットファンで行うため、ロール式のような間隙調整作業が不要で操作が簡単になります。

野菜作機械 条間適応性や植付精度を向上した葉菜類用の1行程で2条千鳥植えができる乗用型2条野菜移植機「PVHR2」とレタス用の1行程で4条千鳥植えができる乗用型4条野菜移植機「PVHR4」を開発し、市場で野菜栽培の省力化に大きく貢献しています。また、生姜等の各地域特産物に対応して作業性良く収穫できる地域対応野菜収穫機の開発と、収穫から調製までの野菜収穫一貫体系の研究開発に取り組んでいます。

農機関連商品技術

農業用施設 水稻種籾温湯殺菌装置を開発しました。種籾攪拌エアブローシステムにより、温湯が種籾にむらなく浸透し正確な殺菌効果があり、連続種籾殺菌作業が行えます。また、大規模養液栽培施設で培った技術を活かし、簡単に栽培ができる「イチゴ栽培キット」を開発しました。また、「農作物ハイク生産システム」を愛媛大学と共同研究し、高糖度トマト栽培技術の確立や「自走式植物生育診断装置を含む知的植物工場システム」の研究が進んでいます。

炊飯関連機器 スイッチ一つでシャリ出しまで全自動運転し、理想の攪拌冷却で酢飯品質を向上でき、寿司店、惣菜店などのニーズに対応できる業務用酢合わせ機を開発しました。

海外商品技術

欧州・北米 低騒音化・メンテナンス性を向上したトラクタ、前・後進HSTペダルの踏込み量を検知し車速を制御する機動性を重視したトラクタ、刈草をセンタ排出方式で後部のコレクタに収容できるコンパクトでスタイリッシュなフロントモアなどを開発しました。

中国 耐久性及び現地苗適合性を向上させた新型植込杆、現地の田植作業に適合させた補助苗枠等を装備し、高耐久・低価格の中国専用田植機PZ60を開発しました。また、高出力60馬力エンジンを搭載し、1.65m/sの作業速度を実現した高耐久・低価格の中国専用コンバインHF608を開発しました。

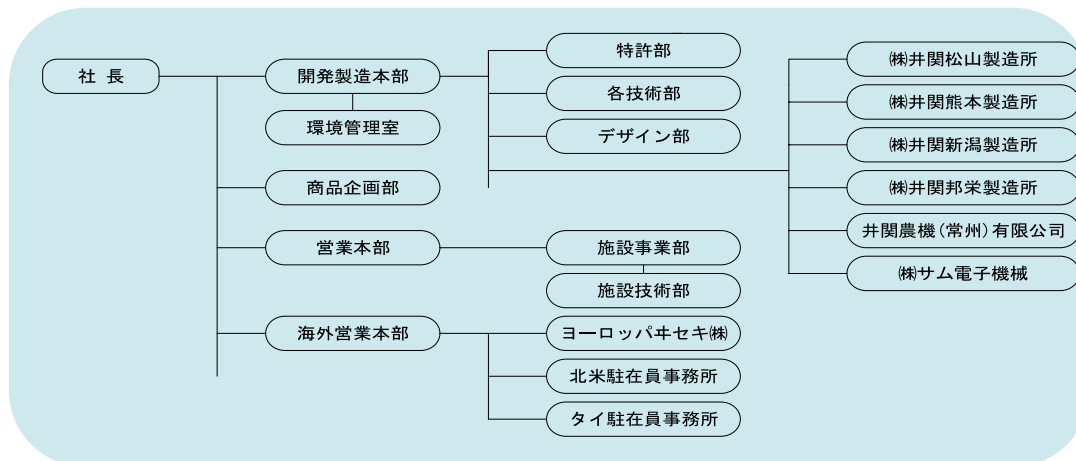
台湾 ATシフトなど先進機能に加え、防泥水性・防塵性など耐候性を向上させた台湾向けトラクタTJWを開発しました。また、先進のZ機能に加え、さなえZターンを更に進化させたさなえスーパーZターンを備え、耐久性を向上させた新型植込杆を装備すると共に、23馬力ディーゼルエンジンを搭載して植付最高速1.8m/sで余裕の高能率・高精度作業を実現した台湾専用田植機PZ80を開発しました。また、高能率・高耐久の専用大型コンバインを開発しています。

韓国 防泥水性・防塵性など耐候性を向上させた韓国向けトラクタTJWを開発しました。また、先進の「Z機能」を備え、耐久性を向上させた「新型植込杆」を装備し高耐久・高能率の韓国専用田植機PZ60を開発しました。また、高能率・高耐久型の専用大型コンバインを開発しています。

東南アジア 低価格で賃耕作業に対応できる耐久性を備え、ドーザなど多用途化に対応する大容量油圧装置を備えたタイ・マレーシア向けトラクタを開発しました。また、低価格で現地特有の作業条件・圃場条件に適応させた田植機を開発しています。

5 研究開発および知的財産体制

研究開発組織図



研究開発体制

商品開発・技術開発担当

井関農機(株)……………トラクタ、田植機、コンバイン、乾燥調製機、野菜作機械、
ディーゼルエンジン、農業用施設、コイン精米機、海外商品等
(株)井関邦栄製造所…耕うん機、管理機、洗米炊飯機、農産物保冷库等
(株)サム電子機械……自動車用試験機等の精密機械

海外商品開発ネットワーク

当社と欧州、米国、中国、東南アジア地域との開発ネットワークにより、グローバルな技術開発の推進体制を構築し、技術関連情報の収集と海外商品に対する研究開発速度のスピードアップを図っています。



知的財産体制

管理体制 特許部は、開発製造本部に所属し、当社及び関連会社を含む井関グループ全体の知的財産の管理・指導・教育を行なう一元管理体制をとっております。

人材育成 井関グループ方針として「井関グループ総合力の発揮」を掲げ、その根幹である人材育成に注力しています。特許部員、技術者、新入社員、製造会社、販売会社に対する知的財産・創造性教育を通じて井関グループ全体の創造性の活性化と技術総力の向上に努めています。

研究開発アライアンス

当社は、コア技術について、独自開発を原則としていますが、コア技術の一部やコア技術に関連する領域については大学や試験研究機関等と共同して研究開発を進め、研究開発の迅速化と効率化を図っています。



試験研究機関・大学との共同研究

6 知的財産の取得・管理、秘密保持

発明考案、権利の取得・管理、企業秘密情報等についての取扱いを、就業規則、職務発明取扱規程、商標取扱規程、井関グループ倫理行動規範、特許業務マニュアル等に定めています。故意若しくは重大な過失により違反した場合には罰則の対象になり、コンプライアンスの徹底を図っています。

発明者に対しては、就業規則・職務発明取扱規程・補償金支給評価基準等の運用による発明承継対価、実施補償、社内外の表彰等によって発明創作へのインセンティブを与えています。

また、発明の創作時から権利の放棄に至るまで多くの規程・基準により知的財産を厳格に管理しています。例えば、特許権の価値評価については、1995年4月に実施権利の価値を金額算定する「特許権の価値算定基準」を設け、社会通念に適合するように逐次見直ししながら自社の特許資産管理や権利交渉等に活用しています。

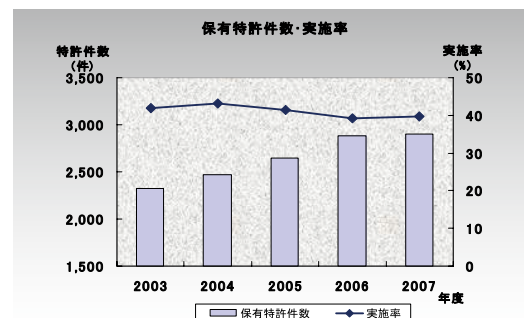
7 特許の活用

コア技術及びこれに関連する領域にある特許権については、自社製品の優位性の確保やクロスライセンスによる商品開発の円滑化により事業を成功させることに重点を置いています。この領域外の権利については、将来の実効性を考慮したうえで、ライセンス等による活用を図るなど、企業にとって最適な手段を採用しています。

特許保有状況

国内

社内規程及び審査基準に基づいて厳選した発明を積極的に特許出願し、有効権利の取得と蓄積に努めております。過去5年間の保有特許件数は年々増加しており、2007年度は約2,900件となっています。

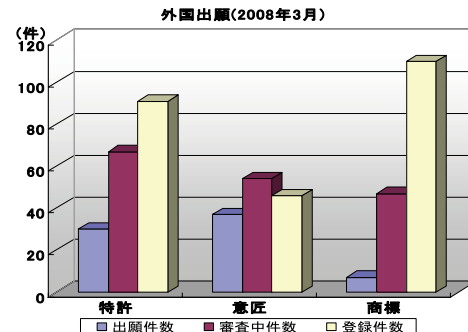
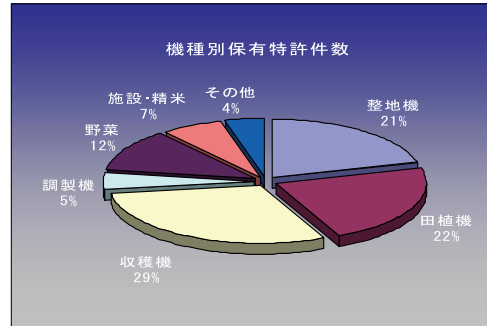


2008年3月末時点における主要3製品(整地機、田植機、収穫機)および野菜作機械の保有特許件数は、当社全体の保有特許件数の84%を占めております。

事業戦略を重視した“強くて良い”特許網の構築を目指した知的財産戦略を実行してまいります。

海外

欧州、米国、中国等のアジア諸国に厳選した知的財産の出願を行っています。保有権利数は、毎年増加しています。また、アジア地域に対しては、積極的に意匠、商標出願し、模倣排除に注力しています。



特許査定率、特許出願関係

特許査定率では、4年連続で全産業中第1位です。

年	2004	2005	2006	2007
井関農機	84.6%	83.7%	90.4%	89.3%
順位	1位	1位	1位	1位

特許査定率＝特許査定件数／(特許査定件数＋拒絶査定件数＋取下・放棄件数)

* 取下・放棄件数＝拒絶理由通知の後に取り下げまたは放棄した件数

また、日本における分野別公開数統計表の農水産分野では、7年連続で第1位です。

年	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006
順位	1位	1位	1位	1位	1位	1位	1位

(特許行政年次報告書2002年版～2008年版)

受賞の歴史

農業用機械技術の開発、育成、実用化による貢献に関連して国家勲章、国家褒章、科学技術功労者表彰、発明表彰、文部科学大臣表彰、農業機械学会表彰等を受賞する多くの技術者を輩出しています。

1952年には、創業者の井関邦三郎が(社)発明協会の全国発明表彰を受賞し、1993年には、当社が日本で始めて実用化に成功した自脱コンバインの開発と普及の功績として「農業試験研究一世紀記念会会長賞」(農水省、農業試験研究一世紀記念会共催)を受賞しました。

2008年4月には、『知財功労賞』を受賞しました。この受賞は、「知的財産の重要性に対する認識が高く、事業戦略、研究開発戦略、特許戦略を三位一体として展開し、知的財産重視の経営が当社の柱の一つとなっている」「特許部が独自に調査・分析して作成した特許情報を元に開発テーマを提案する等研究開発活動にも積極的に関与している」「効率的な特許管理の徹底により、2006年には、特許査定率90.4%(全出願人の平均48.5%)を達成し、3年連続特許査定率日本一であることを、営業部門のセールストークの一つとして積極的に活用している」「四国地域知的財産戦略本部での講演や愛媛県知的財産戦略策定委員の派遣など、地域の産業財産権の円滑な運営にも貢献している」ことが評価されたものです。

(社)発明協会の表彰では全国発明表彰18件を含む178件の発明表彰を受賞しており、受賞件数は年々増加しています。創業者の研究開発に対するフロンティアスピリットを脈々と受け継ぎ、知的創造活動による実用的な新技術の創出が当社の伝統になっています。

受賞関係

○平成20年度 知財功労賞

産業財産権制度活用優良企業等表彰 特許庁長官表彰

○(社)発明協会 平成19年度四国地方発明表彰

発明協会愛媛県支部長賞1件

特許第3107431号 無洗米対応の洗米炊飯装置

発明奨励賞2件

特許第3747809号 デファレンシャルギヤ強制駆動式旋回装置

特許第3743318号 作業車両の操向制御装置

発明表彰受賞件数 178件(2008年3月末現在)

受賞内容

○全国発明表彰 18件

特別賞	発明協会会長賞 1件
	朝日新聞社賞 1件
特賞	2件
発明賞	14件

○地方発明表彰 160件

特別賞	文部科学大臣発明奨励賞(前科学技術庁長官発明奨励賞) 8件
	特許庁長官奨励賞 5件
	経済産業局長賞(四国通商産業局長賞) 7件
	発明協会会長奨励賞 7件
	日本弁理士会会長奨励賞 4件
	合計 31件
支部長賞	9件
優秀賞他	37件
発明奨励賞	83件

8

知的財産ポートフォリオに対する方針

技術動向

競合他社の技術動向を分析し、自社のコア技術の位置付けを明確化し、技術・企画を含めた全社の共有情報として事業戦略・研究開発戦略の構築資源としています。

技術テーマの設定

コア技術、コア技術に関連する有望技術、市場動向等から開発・営業を含む全社の総意に基づいて技術テーマを設定し、明確な目標を持って特許網を構築し、商品開発のプライオリティの確保を進めています。また、自社に蓄積されたコア技術を、井関式特許ポートフォリオIPPMにて他社技術に対する強みを解析・評価し、研究開発戦略に寄与しています。

海外知的財産の構築

各国別の市場動向や知財状況を分析し、開発・海外担当部門と連携してグローバルな事業活動の展開に伴った知的財産戦略を定めています。また、知的財産状況と競合他社の技術動向等から自社技術の実効性を評価するために、当社独自の外国特許情報検索システムを活用しています。そして、各国毎に有望技術を出願し、有効権利の取得と蓄積に努めています。

9

知的財産関連の訴訟情報

国内外ともに経営に影響を与える知的財産権訴訟の継続中の案件はありません。事業、研究開発の推進にあたって、細心の注意をはらい、知的財産戦略を着実に実行いたします。

会社概要

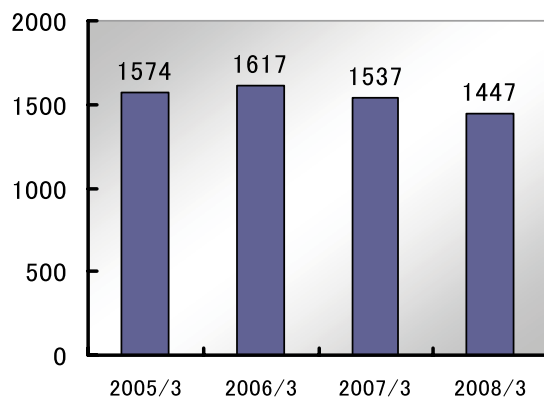
社 名	井関農機株式会社 (ISEKI & CO., LTD.)
本 社	愛媛県松山市馬木町700番地
本社事務所	東京都荒川区西日暮里5丁目3番14号
創 業	大正15年(1926年)8月
資本金	227億84百万円 (2008年3月31日現在)
従業員	連結: 6,513名 (2008年3月31日現在)
事業内容	当社はつぎの製品の製造および販売を主要な事業内容としております 整地用機械・・・トラクタ、耕うん機、管理機、芝刈り機 栽培用機械・・・田植機、野菜移植機 収穫用機械・・・コンバイン、バインダ、ハーベスタ、野菜収穫機 調製用機械・・・籾すり機、乾燥機、精米機、計量選別機、野菜調製機 その他・・・・・・作業機、補修用部品、農業用施設

開発製造に関する関連会社

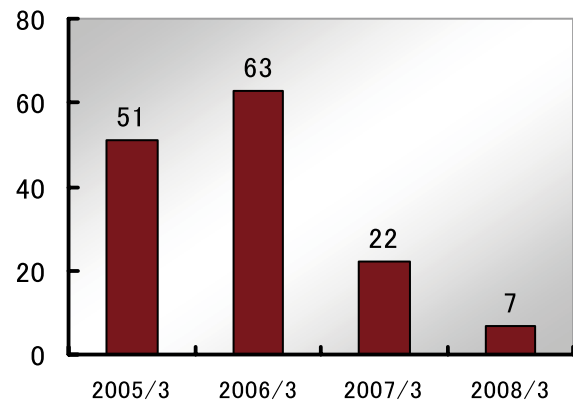
(株)井関松山製造所	(株)サム電子機械
(株)井関熊本製造所	松山ファクトリーサービス(株)
(株)井関新潟製造所	(株)キセキエフエス熊本
(株)井関邦栄製造所	(株)井関植木製作所
井関農機(常州)有限公司	

業績推移

■売上高(億円)



■営業利益(億円)





報告書に関するお問合せ先

井関農機株式会社 開発製造本部 特許部
〒791-2193 愛媛県伊予郡砥部町八倉1番地
Tel. (089)956-9810 Fax. (089)956-9818
URL: <http://www.iseki.co.jp/>
E-mail: pat-matsuyama@iseki.co.jp